

### 【自然環境】

\*面積：13.33 km<sup>2</sup> 周囲：20.38 km 東経：129 度 55 分 北緯：29 度 59 分 30 秒  
最高点：628.3m(前岳)

#### \*地図上の位置

鹿児島郡十島村口之島は鹿児島と奄美大島との間に点在する 12 島からなるトカラ列島の一番北に位置する島である。鹿児島市から南へ 204 km、北緯 30 度線が北端を横切っている。

#### \*自然

島の南側は絶壁、北側は海岸になっているところが多い。海岸部は珊瑚礁が島づたいに平行に広がっている。本島は霧島火山帯に属し、前岳を中心に燃岳や横岳などの火山が回りを取り囲んでいる。そのため、口之島には3つほどの温泉が点在する。

気候は温暖多雨、平均気温は 20 度で鹿児島市より4度くらい暖かい。季節風の影響を強く受けるとともに、熱帯性低気圧の影響を受けやすい。

植物群は主として広葉樹と常緑樹で、リュウキュウ竹を優勢種にタブやシイ・ヒサカキ・アコウ・ガジュマル・ハマユビア(北限)・アダン(北限)など、亜熱帯性の植物が多く見られる。その昔、平家の落人が袂に入れて持ってきたというタモトユリは県の天然記念物に指定されている。島の形成が比較的に新しいために、動物の種類は極めて少ない。よく見られるのは野生牛(黒毛和牛種)とトカラヤギである。

### 【社会的背景】

\*人口：73 世帯で、人口は 118 人(平成 27 年 3 月末現在)

#### \*歴史

縄文時代：口之島でも石斧や条痕のある土器が出土している。当時の人々は、狩猟や採集を中心に生活をしてきたと考えられる。

古墳時代～平安時代：ヤマゴロウ遺跡やナカキヤマー遺跡より須恵器が発見される。当時は口之島北部の棚田を利用し、稲作を行っていたと考えられる。沖縄と九州との間に挟まれ、「海上の道」として文化等の伝達の一環を担っていた。

鎌倉時代：河邊(かわなべ)郡に属し、川邊(かわなべ)氏や千竈(せんかま)氏の支配を受ける。

南北朝時代～室町時代：島津氏の一族が種子・屋久・奄美・トカラを統括する。依然として川邊郡に属す。和寇の出没に対して砦や山城を設けている。壇ノ浦の戦いの後、平氏の一族が小舟 4～5 隻に乗り口之島に逃げのびてきたという伝説もある。

江戸時代：薩摩藩に属し島津氏の支配を受ける。主として漁業に従事し、自給自足のために農業も行っていたようである。

明治時代～：鹿児島県に属するが、川辺郡→大島郡→鹿児島郡(昭和 48 年)と所属が変遷する。敗戦を受けてアメリカ軍の統治下に移るが、昭和 27 年 2 月に日本国に復帰する。

#### \*産業

農業・畜産を主としながら、土木工事、漁業、電力、建設、郵便、公務等に携わっている。

#### \*教育環境

教育への関心は高く、授業参観やPTA会合等への出席や、地域の方々の運動会や文化祭への参加も多い。島には昔からの伝統をもつ風俗や習慣・貴重な芸能等が伝承されており、子どもたちの見学や参加などを通して郷土愛を育む教育活動を行っている。

口之島小中学校 HP によると平成 27 年において、小中学校ともに新入生は一人ずつで、全校生徒は 11 人となった。

## 【住民の生活】

### \*風習・慣習

#### ◦盆踊り

旧暦の盆の日に行われる伝統芸能。島の男性が踊り手となり、踊りの中に狂言が組み込まれているのが特徴。録音技術のない数百年前から口頭で継承されてきた。

#### ◦霜月祭り

口之島でも有名な祭りの一つ。旧暦 11 月に行い、神様に今年取れた新しいお米でつくるお酒やサトイモをそなえる。各お宮をまわって遠くの家族の健康安全や豊作を祈る。

#### ◦十五夜

毎年 9 月に行われる地域のお月見。満月を見ながら綱引きや相撲などを楽しむ。

#### ◦敬老会

毎年 9 月にお年寄りの方々に集まっていただいて敬老会を開いている。小中学生も参加して、合唱や金管バンド演奏などを披露している。

#### ◦トカラ列島島めぐりマラソン大会

村営定期船を利用してトカラ列島の有人 7 島を走破するマラソン大会である。十島村の本土復帰 55 周年を記念して、2006 年に第 1 回が開催された。閉会式後の見送りの時は児童生徒全員でエイサーを踊り、ランナーの皆さんを見送る。

## 【医療供給体制】

- ・島には看護師が 1 人常駐。歯科医師、医師はいない。
- ・フェリーとしまの 3 階にはヘリポートがあり、緊急時の救出はそこにヘリが着陸できる。

## 【実習概要】

日付	内容
7. 4(土) A.M	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根管貼薬</li> <li>・右下 Br 合着、前歯部コンポジットレジン充填</li> <li>・ろう義歯試適</li> <li>・新義歯装着</li> <li>・上顎右側歯間部コンポジットレジン充填</li> <li>・義歯修理</li> </ul>
P.M	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上顎前歯部抜歯(3歯)</li> </ul>

## 【振り返り記録】

### \*歯科診療について

- 器材が少ない中でいかに効率よく診療を進めていけばいいのか考えながら行った。大学での診療と同様に、清潔・不潔のコントロールの大変さを改めて感じた。
- 患者さんとの会話のなかで、歯科治療に対する不安が見られたことから、丁寧な説明や声掛けの必要性を感じた。
- 簡易式のX線撮影を行い、装置なしで手作業の現像を経験することができた。

#### \*島での生活について

- 1日目はずっと雨だった。風も強く、土砂崩れも起きていた。島内放送にて「〇〇さんのお宅の前で土砂崩れがありました。」とあり、島内の人みんなの家がわかるのだと思った。
- 診療を行った公民館には島の人全員で撮影された写真があった。若い人がすくなく、島全体の高齢化を感じた。今年の小中学生が合わせて11人であることからもうかがえる。
- 道の途中で黒一色の野生のヤギを身近に見ることができ、貴重だった。
- 私たちが宿泊した民宿「くろしおの宿」はご飯がとともおいしかった。民宿のおかみさんは朝、「患者さんが50人も待ってるよー！早く起きなさい」と大きな声で起こしてくれた。しかし、よく考えてみると、50人は島の半分の数でありえないと思った。
- 民宿のご主人は朝から漁に出かけ、新鮮なマグロやカツオを採ってきてくれる。肉厚で臭みがなく本当においしかった。
- 島の人みんなやさしく、フェリーの中でも気さくに話しかけてくださった。



私たちが泊まった  
民宿『くろしおの宿』



2日目のお昼  
とにかく毎回  
ボリュームあり